

富士見小は開校50周年を迎えました ～これまでも、これからも心の故郷・富士見小～



ALL FUJIMI

飯能市立富士見小学校
R6年度 学校だより
第13号
文責：小野 加津美

前進できぬ駒はない

中原 誠(棋士)

「夏の猛暑が例年よりひどいと、続く冬は寒さが厳しくなる。」そんな気象に関わる話を耳にしたことはありませんか。昨年は世界的規模での猛暑でした。これは単なる昔からの言い伝え？ではなかったのか。と思うほど大雪の災害に遭われている地域があります。降雪被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。同時に一日も早い復興をご祈念申し上げます。ありがたいことに私たちの住まう飯能では、まだまだ寒さが厳しい中にありますが、梅のつぼみが大きくなっているさまや陽が延びたように感じる等々少しずつではありますが、春の訪れを肌で感じられるようになってきました。鼻がムズムズするのは嬉しくないのですが、まあこれも春がやってくるサインですね。気づけば今年度も終わりが近づいてきています。

今年度は、本校にとっては忘れられない大きな節目の一年、「開校50周年」を迎えた年でした。富士見小学区は市の中心部にあり、交通の便や公共施設も充実していながらも、自然豊かで人情味あふれたな地域です。熱心に学校教育への支援をしてくださる方々も大勢いらっしゃいます。常に感謝しておりますが、この一年は例年に増しての思いでいっぱいです。

5月のツデーマーチでは、市内在住者の方に記念品をお配りしました。そこでは6年生のボランティア舞台が大活躍してくれました。10月に実施したバルーンランタンフェスティバル。【おやじの会】の皆様が振る舞ってくれた豚汁の美味しさは今でも忘れられません。1月には高学年の実行委員会が企画・運営してくれたハッピーフェスティバルを開催。スペシャル・ゲストティーチャーとして、卒業生でもある日本テレビの小高茉緒アナウンサー様にご来校いただきました。小高さんの子供の頃のお話を聞いたり、一緒にゲームを楽しんだり、とても素敵な時間を共有することができました。そして、50周年を記念して誕生した富士見小のキャラクター“ふじくま”。記念誌や全校児童の笑顔の花が咲いたクリアファイル…全てが歴史の1ページとして心に刻まれました。

冒頭の言葉『前進できぬ駒はない』は、昭和から平成の時代にプロ棋士として活躍した十六世名人の中原誠さんが語った言葉です。「歩や桂馬、香車のように、将棋の駒の中には後退できない駒がある一方で、前進できない駒はない。」ということを表している言葉です。真っすぐ一歩ずつ進んだり、斜めに進んだり動き方は様々ですが、それでも将棋の駒は確実に前へと進めます。私たちの人生の歩みも同様です。富士見小の50年間の歴史と文化を築き支えてくださった皆様。新たにそれを伝承し、より発展させていく重責を背負うこれからの子供たち。これからも富士見っ子はまっすぐに前を見据え、自らの豊かな人生を歩いていくことでしょう。子供たちに夢と希望と大きな未来を与え、その歩みをサポートしてくださる全ての皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後の富士見小の発展にもどうぞお力添えをお願いいたします。

さあ、令和6年度も残り1ヶ月となりました。富士見小が子供たちにとって「通ってよかった学校」、保護者や地域の皆様にとっては「通わせてよかった学校」と思っただけのように、最後の日まで教職員一丸となって頑張ります。3月も皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



◎防犯ブザーの確認をお願いします

【通り魔的犯罪】が各地で発生しています。“不測の事態”に遭遇したときは「大声を出して助けを求める」ように学校でも指導していますが、実際は難しいこともあるようです。

あってはならないのですが“万が一”に備え、

- ①ブザーは破損していないか。電池切れしていないか。
 - ②使用方法を理解しているか。
- ご家庭にて確認をお願いします。



◎tetoruの登録はお済みですか？

富士見小では緊急連絡用に【マチコミメール】を利用していましたが、3月からは飯能市内統一のメールアプリ【tetoru】での連絡となります。

欠席連絡もロイロメールから【tetoru】へと変更されます。地域の皆様への連絡のみ【マチコミメール】を継続して利用してまいります。

【tetoru】の登録がお済みでない場合は、至急ご対応ください。

